



「すり合わせ」の技能は基本から — 継続した取り組みでものづくり現場を強くする —

静岡県で開催された「第39回技能五輪国際大会」では、金メダル16個で首位、金銀銅合計で24個を獲得し、まさしく日本の完全復活となった。

久しぶりに心の底から喜べるすばらしい出来事で、関係者の方々のご努力に敬意を表したい。そして、活躍した日本の若者に心から拍手を贈りたい。

弊社は照明、情報機器、住建、電子材料、制御機器の6つを基幹事業とし、現在は25万品番にも及ぶ多種多様な商品を手掛けている。

ものづくり人材の育成については、工科短期大学校、技能五輪、モノづくり競技大会、監督者研究会等、長年にわたって継続した取り組みを実施している。2005年からは「モノづくり人材力の強化」として、大卒・院卒新人ものづくり研修、生産革新研修、匠フォーラム、金型設計塾等を立上げて推進している。

工科短期大学校は1990年にメカトロニクス技術科、1996年に精密加工技術科を併設する厚生労働省認可の企業内訓練校で、現在、41名が在籍している。

将来のものづくりを支えるコア人材の育成と位置づけて、「心技体」のバランスの取れたりっばな人材になれるように育成することを目指している。考え方は「基本」の徹底であり、技術・技能を磨き上げて「頭と腕」を兼ね備えた人材に育てることである。

技能五輪は、本校の卒業生を主体に、機械組立て職種、フライス盤職種、精密機器組立て職種、メカトロニクス職種の4職種に「心技体」の磨き上げのために現在、11名が訓練し、挑戦している。

今年で第44回を迎えたモノづくり競技大会では、46職種に1,567名が参加し、盛況な盛り上がりであった。職場の先輩や上司が、後輩に技術や技能を伝承する絶好の機会であり、継続していきたい。

監督者研究会は班長、職長クラスの1,302名で構成する全社的な自主研究会で、今年で49年を迎え、

「FT職能開発研究会（FT:Foremen&Technicians）」という名称である。全社と工場ごとに幹事や事務局を設けて活動し、基本方針は働きを高め、職務遂行能力の開発や職場の活性化を図ることである。

事業は多岐にわたっているが、ものづくりにおいて、「精密金型づくり」と「生産設備づくり」が共通の技術・技能の基盤と認識している。

「精密金型づくり」では、マシニングセンタやNC加工機（放電加工・研削盤加工等）で精密に部品を公差内に加工しても、最終は人間の手で組み合わせなければならない。個々の部品の寸法や平面度、直角度を計測し、組立調整する技能が不可欠である。また、上型と下型の当たりを見て、隙間がないように微妙に組み上げる技能が必要になる。すなわち、これが「すり合わせ」の技能であり、一朝一夕には身に付かない熟練の技である。

この「すり合わせ」の技量の差によって、金型の品質、コスト、納期に影響を与え、製品の良し悪しが決定する。更に、金型の寿命に大きな差がでる。同様に「生産設備づくり」も全く同じことがいえる。

この「すり合わせ」の技能を身に付ける方法は、やすりを使った仕上げ加工が最適である。ミクロンオーダーの寸法精度、平面度、直角度を出せる基本を徹底して修得させ、熟練技能における「五感」を磨き、鍛えることである。

ものづくり人材の育成のためのしゅきを組織的につくり、継続した取り組みで、ものづくり現場を強くすることが重要であると確信している。

おただ まさみ
略歴

1973年 松下電工(株)に入社
1992年 同社 研究開発部門 主査
1993年 同社 人材育成研修センター 課長
2001年 同社 人材・能力開発センター 部長
2004年 同社 工科短期大学校 校長
現在に至る